

## I - B - 3

**Bleomycin誘発肺線維症に及ぼす丹参の影響**

a)岐阜薬科大学薬理学教室, b)岐阜薬科大学生薬学教室

○田中宏幸<sup>a</sup>、中山謙一<sup>a</sup>、森 裕志<sup>a</sup>、江田昭英<sup>a</sup>、大山雅義<sup>a</sup>、飯沼宗和<sup>b</sup>

【目的】丹参(*Salvia miltiorrhiza radix*)はシソ科の多年草であり、中国では活血化瘀剤として適用されている。先に演者らは、丹参がBleomycin(BLM)誘発マウス肺線維症を抑制し、その有効成分は比較的親水性の高い物質であることを報告した(和漢医薬学会誌 8, 46, 1991)。本研究では、その有効成分の分画を試みた。

【方法】いずれの実験においても、15週令のICRマウスの気管内に0.01mgのBLMを注入し、30日後に屠殺して肺線維症の程度を観察した。丹参およびその分画物はBLM気管内注入日より屠殺日まで連日経口投与した。肺線維症の程度は、肺の湿重量(WLW)、乾燥重量(DLW)、hydroxyproline量(HP)および乾燥肺重量当りのhydroxyproline量(HP/DLW)を指標とした。

【結果および考察】丹参のメタノールエキスをエーテルおよび水で分配抽出し、エーテル画分および水画分とした。水画分はさらに酢酸エチルと水で分配抽出し、この酢酸エチル画分をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(ベンゼン-アセトン系)により、Fr.1, Fr.2およびFr.3に分画した。Fr.1は、肺線維症にほとんど影響を及ぼさなかったが、Fr.2およびFr.3、特にFr.2は、HPおよびHP/DLWの増加を強く抑制した。一方、丹参のメタノールエキスをクロロホルムと水で分配抽出した水可溶性画分は明らかに肺線維症によるHPおよびHP/DLWの増加を抑制した。この水画分およびFr.2が抑制作用を示すので、丹参の肺線維症抑制作用物質は複数存在するものと思われる。さらに、その有効成分の分離を続行中である。